



の時々々の音色はカーテンの異なる位置から聞こえてきた。頃あいを計って音源に近いカーテンをさつと開いた。そこで目にしたものは十センチ強の黒っぽい物体だった。それが壁づたいに素早く移動している。

出勤途上の車の中、今朝の新鮮なニュースだと勢いこんで話に、誰もさほど関心を示してくれない。それもそのはず、こんなことは現地ではありふれた出来事だったのだ。

私にとってとんでもないモーニング・コールは、「ヤモリ」の鳴き声。生まれて初めて体験だった。